

歴代女性天皇

推古天皇（すいこてんのう）
在位：592年～628年（第33代）
初の女性天皇

- ・聖徳太子を摂政に任命し、十七条の憲法や冠位十二階制度の制定を進めた
- ・仏教の興隆に力を入れ、法隆寺の建立が始まる
- ・中央集権国家の基礎を築いた
- ・朝鮮半島や中国（大陸）との外交関係も活発化。百済からの僧侶や技術者の来日などにより国際色が強まる
- ・日本初の女帝として“女性でも天皇として国を治められる”先例をつくった

皇極天皇（こうぎょくてんのう）
在位：642年～645年（第35代）
→重祚（再即位）して斉明天皇に

- ・大化の改新が起きた時の天皇（中大兄皇子と中臣鎌足による蘇我氏打倒）
- ・蘇我入鹿暗殺後、譲位して政治改革を後押しする
- ・初めて重祚した天皇

斉明天皇（さいめいてんのう）
在位：655年～661年（第37代）
皇極天皇の再即位

- ・九州防衛のため朝鮮半島情勢に対応（百済復興支援）
- ・吉野宮や運河を作るなど飛鳥の開発や土木事業を行う
- ・我が国初の漏刻台（水時計台）などが残されている

持統天皇（じとうてんのう）
在位：690年～697年（第41代）

- ・天武天皇の制度改革を引き継ぎ、「大宝律令」の制定など国家体制の整備に貢献
- ・国号を倭国から日本国に、尊称を天皇に決めてから初の即位
- ・初めて大嘗祭を行うなど天皇制の安定に尽力
- ・藤原京の造営（初の本格的な都城）
- ・『日本書紀』の編纂を開始
- ・皇位の初の“直系継承”を実現（息子→孫への継承）

元明天皇（げんめいてんのう）
在位：707年～715年（第43代）

- ・平城京への遷都を実現
- ・日本最古の流通貨幣「和銅開珎」の铸造
- ・『古事記』の撰上
- ・国家のアイデンティティ確立に貢献

元正天皇（げんしょうてんのう）
在位：715年～724年（第44代）
元明天皇の娘

- ・「養老律令」の制定
- ・『日本書紀』の完成
- ・『続日本紀』や『風土記』の編纂を推進
- ・社会福祉政策（困窮者への救済）も行った

孝謙天皇（こうけんてんのう）
在位：749年～758年（第46代）
→重祚（再即位）して称徳天皇に

- ・初の女性皇太子として立太子の礼を挙げる
- ・仏教を厚く保護し、東大寺造営の推進と大仏の開眼供養を行う
- ・唐僧鑑真の来朝

称徳天皇（しょうとくてんのう）
在位：764年～770年（第48代）
孝謙天皇の再即位

- ・全国の国分寺・国分尼寺体制を強化、仏教設備の整備
- ・日本最古の印刷物として知られる「百万塔陀羅尼」を全国の寺院に納める
- ・西大寺の創建
- ・道鏡を重用し仏教を政治の中心に置き、天皇の強い宗教的指導者としての側面を明示

明正天皇（めいしょうてんのう）
在位：1629年～1647年（第109代）

- ・7歳で即位
- ・江戸幕府と皇室の関係が緊張する中、その融和の緩衝材として重要な役割があったと
- ・朝廷と幕府の関係維持に尽力し、内裏の整備などにも取り組んだ
- ・退位後も女院として政治的発言力を持ち、朝廷の維持と安定に尽力した

後桜町天皇（ごさくらまちてんのう）
在位：1662年～1771年（第117代）

- ・室町時代以降、財政難などから途絶えていた宮中祭祀の中心である「新嘗祭」を再興
- ・朝廷の儀式や格式の再建に努め、文化的権威を保った
- ・朝儀の復興と典礼の整備は、後の国体形成にも間接的に寄与したと評価される
- ・漢詩・和歌など文芸に通じ、文化人としても活躍
- ・多くの著述が残されており、それらを通して、仁慈の心厚く、神仏への寄与の念が深かったことがうかがわれる
- ・食糧危機の時には幕府に働きかけて米倉を解放させるなど、困窮する国民に直接働きかける行いをし、国母と言われた
- ・9年の在位後に甥に譲位するが、その後も「太上天皇」として政務を補佐

- 女性天皇は「非常時」「過渡期」に即位し、安定と継承のために尽くした存在が多い。「代理」や「消極的な選択」ではなく、国家の舵取りにおいて重要な選択肢だった。制度改革・文化振興・宗教保護など、国の根幹を支える役割を果たした。
- 歴代の女性天皇はすべて天皇の娘（皇女）。直系すなわち皇位継承の本流であり、皇統の正統に位置する存在。日本の伝統における柔軟で実力本位の皇位継承を示す。
- 男性天皇では一例もないが、女性天皇は重祚が二例ある。信頼・実力・正統性があったことの証左であり、国家の中核に必要な存在だった。“例外”ではなく、“頼れる選択肢”だったことが歴史に表れている。

女性天皇	父親	母親	配偶者	子女
推古天皇	欽明天皇☆	蘇我堅塩媛	敏達天皇	菟道貝蛸皇女 竹田皇子 小墾田皇女 鷗鷺守皇女 尾張皇子 田眼皇女 桜井弓張皇女
皇極(斉明)天皇	茅渟王(敏達天皇皇孫)	吉備姫王(欽明天皇皇孫)	舒明天皇	漢皇子 天智天皇 間人皇女 天武天皇
持統天皇	天智天皇☆	蘇我遠智娘	天武天皇	草壁皇子
元明天皇	天智天皇☆	蘇我姪娘	草壁皇子	元正天皇 文武天皇 吉備内親王
元正天皇	草壁皇子(天武天皇皇子)	元明天皇☆		
孝謙(称徳)天皇	聖武天皇☆	光明子(光明皇后)		
明正天皇	後水尾天皇☆	徳川和子		
後桜町天皇	桜町天皇☆	藤原舎子		

- 皇極天皇以外は、天皇の1世=皇女。
- 藤原氏による摂関政治になり男性天皇が求められる時代になるまでは、婚姻して出産している。
- 子女がいる場合、推古天皇以外はその子女が天皇となっている。つまり皇統をつないでいる。

時代による皇位継承の変遷(概要)

年代	時代背景と皇位継承	女性の皇位継承	女性の即位
古代~奈良時代	皇統の正統性が最重要視され、性別は問われなかった。 歴代の半数が女性天皇。	○	○
摂関政治(平安時代)	藤原氏が子女を天皇に嫁がせることで外戚として権力を握る。 そのために男性天皇が必要だった。	○	△
南北朝時代~中世 (鎌倉後期から室町時代)	武家社会が確立して男性優位な家意識が強くなる。 皇統が分裂して混乱、実権が低下して幕府の外圧が強くなる。	○	△
幕府の管理統治(江戸時代)	徳川幕府が治世のために朱子学を導入、男系男子思想の固定化。 倒幕運動の正当化として尊王攘夷が支持される。	○	△
開国・近代化と儒教思想の継続 (明治~昭和初期)	建国神話による国家創世として天皇がシンボル化。 江戸時代からの家督制度などが継承され、男系男子が確立。	×	×
民主主義と象徴天皇(戦後)	歴史の継承が重視され、男系男子が継続される。 憲法とのねじれが存在。	×	×

古代は天皇(朝廷)が実権を持つ

- 武士の誕生により駆け引きが行われ、天皇の実権が弱まる=男性天皇が求められる
- 徳川幕府の政策によって男性優先社会となり、女性天皇が誕生しにくくなる(それでも2名が誕生)
- 明治政府の国策と政治的イデオロギーによって、男系男子継承が固定化される → 戦後も継続